

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第43回 全国中学校バスケットボール大会	期間 2013年8月22日(木)～8月25日(日)
開催地 静岡	会場 浜松アリーナなど
参加者 大川 潤	所属地区名 札幌
講師 御手洗 亮 氏(中体連 大分)	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など なし	
実技研修、座学研修等の記録 ○審判活動を行っていて、自チームに還元できることは何だろうか。 ○日頃からトレーニングを積み、フィットネスに自信を持つこと。 ○ルーティーンを持つ ○中学生の技術レベルが上がってきている。そして、中学生は大人に笛を吹いてもらおうと、先生と生徒の関係になってしまうことある。多少、納得いかなくても文句を言わない。選手達の成長につなげるために「中学生」ということに甘んじることなく、審判を行う事。	
実践実技1	
2013年8月23日 (金)	対戦カード 予選リーグ 西福岡(福岡)vs豊野(埼玉) 男子
副審 大川 潤	相手審判 山内 俊幸(AA級 愛知)
ゲーム前のカンファレンス内容 ①プレスの見方(Newリードの位置) ②バックチップの見極め ③バイオレーションを完璧にすること ④リードで右に行く時	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:平林 達哉(A級 福島) ①ゲームの入りからリズム良く吹けていた。 ②最終局面の細かい動きやペネトレートがもっと必要。 ③自分のエリアから始まるプレーをもっとペネトレートして見に行くこと。 ④触れ合いの責任をもっと見極めること ⑤危ないプレーへの素早い対応(アウト・オブ・バウンス)	

ゲーム感想

全中は、初めての経験であったが、メンタル的には落ち着いてコートに立つことが出来た。予選リーグの中でも競ると言われていた対戦カードであった。山内氏とコミュニケーションを取り、スムーズにゲームを進めることができた。自分の今の課題である「最終局面への細かい動き」がまだまだ足りず、判定できていない時があり、すぐに改善しなくてはならない。アウト・オブ・バウンスの判定時に、選手がルーズボールを追いかけてライン際で相手選手の顔に当ててマイボールにしたケースが私の目の前であった。私は、選手に注意を与えずに試合を始めてしまったが、すぐに注意を入れないとけんかになってしまうケースもあると話をしてもらった。危ないプレーへの素早い対応がまったくできていなかった。

AAの方と吹かせていただいた一番の感想は、コート上で起こっている事をすべて把握していて、素早く落ち着いて処置する力に長けているということである。また、「よりよいゲームをみんなで作ろう」という雰囲気漂っていて、そのような包容力が必要だと感じた。

まとめ

前回の全国ジュニアオールスターでは、「当たり前のことを当たり前に行う事」の大切を感じ、北海道に戻ってからも意識して行なうことができ習慣化することができた。

大会前に御手洗氏の講義の中であった「中学生だからといって甘えてはいけない」という話は、自分自身にも当てはまる時があるので、謙虚な姿勢でレフリー活動を行いたいと思う。また、一緒に吹かせていただいた山内氏の「よりよいゲームをみんなで作っていこう」という包容力も、とても大切なことだと感じた。

2日目の割り当てをもらえず、まだまだ力不足であり、とても悔しい思いをした。今ある課題を徹底して直し、良い習慣をつけ、また全国大会の舞台に立ちたいと思う。

最後に、このような機会を与えていただいた道協会森野理事長をはじめ、北本審判委員長のご配慮に厚く感謝いたします。ありがとうございました。